

市のいろいろな情報 ②

各務原市に住むと 10 万円もらえる！？

わくわく定住奨励金～親世帯がすでに市内に居住し、市内に新たに住宅を購入して転入される子世帯に 10 万円をお渡しするもの～の対象者は昨年度 51 世帯でした。これらの方々は「この奨励金があるから各務原市内に住むことにした」・・・ということなのだろうか・・・

がんばる市内の航空機産業に支援！

国際ロボット展や東京国際航空宇宙産業展に出展するなどの産業振興の支援を行い、ロボット展では 100 件のビジネスマッチング、6 件の商談成立、航空宇宙産業展では 690 件のビジネスマッチング、33 件の商談成立に結び付いた。海外と取引する大企業が元気になり、次は中小・零細企業にお金が回ることを考えないといけないですね。

「たばこ税」情報・・・

昨年度の市に入ったたばこ税は 8.68 億円。市内で販売されたたばこの本数に対して、千本につき 5,262 円割り当てられます。単純に 1 億 6,500 万本くらい売れたということですね。

特養の入所待機の状況

特別養護老人ホームの入所待機者は 1,700 人くらい。この中で、真に必要と考えられるのは要介護 3 以上で 1 年以内に入所した方がいいという方は 270 人ほど。ほとんどは「とりあえず順番をとっておこう」という申請と思われる。市では 3 年ごとの高齢者総合プランを立て、計画的な環境づくりに取り組んでいる。

検診で見つかる！？まだの皆さんも お考えください

昨年度、各務原市で乳がん検診受診者 2,714 人中、要精密検査の人が 266 人、がんが発見されたのが 17 人。子宮がん検診受診者 2,625 人中、要精密検査の人が 85 人、がんが発見されたのが 4 人。胃がん検診受診者 1,864 人中、要精密検査の人が 451 人、がんが発見されたのが 10 人であった。

保育料延滞者への対応は？

保育料の滞納は H25 年度決算で 3,043 万円。H24 年 2 月から保育料や給食費などの滞納者からは児童手当からの天引きができるようになった。市では 6 月に 36 人の方に総額 174 万円、10 月に 39 人の方に総額 172 万円の天引きをお願いすることができたが、天引きするには保護者の承諾書が必要となっており、担当部署は苦労している。

シルバー人材センターへの補助金って？

シルバー人材センターの運営に 1,800 万円補助している。世帯数×100 円+60 歳以上人口×50 円を補助することとなり、高齢化率が進めば、補助金も上がる。

生活保護世帯への対応は？

市内の昨年の生活保護費は 11 億円。増加傾向の主な要因は高齢者世帯の受給世帯の増加。保護世帯 529 世帯のうち、高齢者が 300 世帯 56.7%、障がい者 56 世帯 10.6%、母子 32 世帯 6.0%、傷病 66 世帯 12.5%、その他 75 世帯 14.2%。その他の世帯とはいわゆる就労可能世帯と思われる。市ではハローワークに同行するなど就労支援を 61 名に行い、そのうち 41 人が職に就いた。このうち収入増により保護脱却したのは 7 人であった。

《新年互礼会のご案内》

◎ 平成 27 年 1 月 11 日 (日) 9 時～14 時

※時間内のいつご参加いただいても結構です。

◎ 後援会事務所 (池戸ミシン)

お問合せ先は、371-2749 (後援会事務所) まで



	池戸一成 後援会 会報	新年号
	しぶがき通信	発行日：平成 27 年 1 月 発行者：池戸一成後援会事務所 各務原市蘇原柿沢町 1-15 TEL：371-2749 H P：http://ikedo.info/

あけましておめでとうございます。

今年も「開かれた市政」をテーマに頑張っていきます。

池戸 一成

市のいろいろな情報 ①

ふるさと納税が好調！

各務原市のふるさと納税が順調で、H24 年度は 145 万円ほどだったが、H25 年度は 1 億円を超え、本年度は 3 億円を超える勢い。消費税増税前の駆け込みと、商品の魅力が主な要因のようです。

ありがたい給付金だが 経費も意外と掛かってます

本年度のみ国から支給される「臨時福祉給付金」(消費税 8%への引き上げに対する臨時補助措置)。各務原市で給付される金額の 3 億円に対し、事務作業費が 1,282 万円。そのうち郵送料が 1,078 万円。手続き書類の記入漏れなどが多く、思ったより書類が往復する郵送料がかかっているようです。

からだの不自由な方へのご提案

各務原市では、疾病・障がいなどで急病時緊急対応が必要な方に対し、ボタンを押せばすぐに消防署などへ連絡が入る「緊急通報システム」を設置している(所得により有料の場合あり)。現在 672 人に対し設置しており、このシステムでの救急車の出動は 68 件。

結婚相談がダントツ！

市民相談室の相談件数は H25 年度 2,753 件。そのうちダントツで多いのが結婚相談 1,315 件。この相談のうち、お見合いを行ったのが 135 件、ご成婚までいったのが 6 件だそうです。消費者相談が増えていて、H21 年度 167 件に対し H25 年度は 291 件。消費者詐欺などが目立っています。

JR 那加駅に駐輪場

JR 那加駅に自転車置き場ができます。80 台の駐輪可能になります。3,400 万円うち土地購入費が 2,849 万円

市民清掃での境川堤防の除草 業者委託に予算が・・・

市民清掃で境川除草を行っていたが、危ないなどの理由でやらない自治会連合会もできた。市民清掃でやらなくなった除草を業者委託することになり、これにより 655 万円の支出が増えた。全額が県からの支出金。

航空宇宙科学博物館のリニューアル計画

かかみがはら航空宇宙科学博物館のリニューアル構想が作成されている。これに合わせ来年度設計を行い、H28～29 年度に工事を行う方向。同施設の入館者数は H8 年度 488,022 人をピークに減り続けており、H22 年度は 108,105 人。その後、はやぶさ展示などで多少盛り返すも、今のままでは大きく増える期待は薄い。博物館として市税持ち出しが納得できる施設となるよう期待したい。

各務原市の人口構成の行く末は・・・

昨年度各務原市で生まれた子 1,184 人、3 歳までの乳幼児 5,162 人。これに対し、65 歳以上の高齢者 36,792 人、身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保護福祉手帳発行者 9,236 人、生活保護世帯 529 世帯。支える世代の負担は増えていく。

決算総額は増えているが、市民サービスは微減

※ このページの金額は、市民1人当たり換算した金額です。

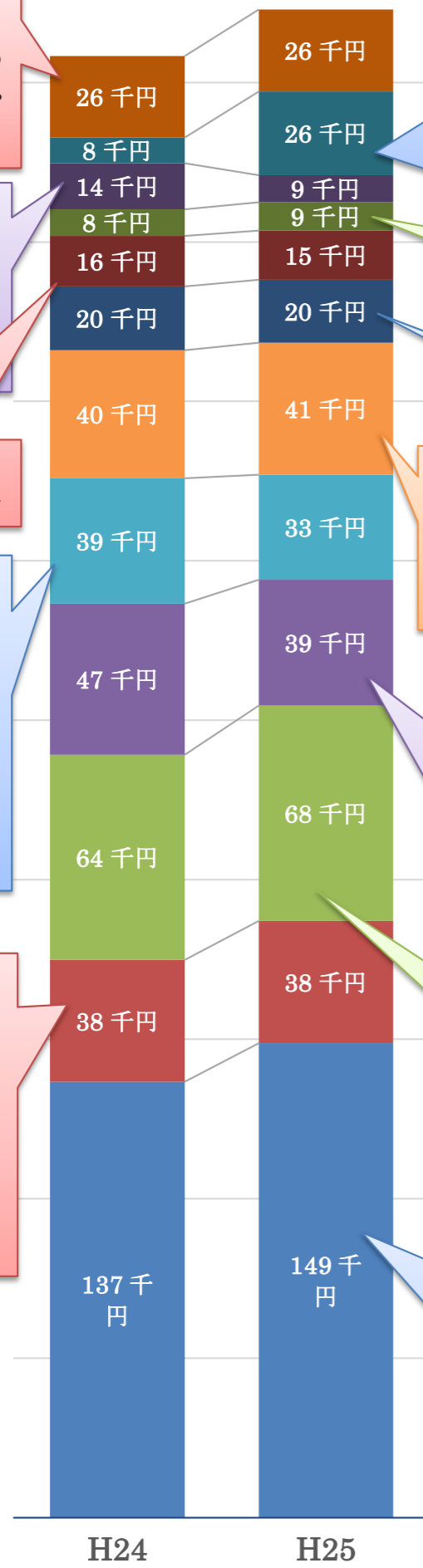
【その他】
市民の財産・公文書・税などの様々な管理のための人件費やシステムに掛かる費用など

【スポーツ・文化活動】
※ 体育施設運営 1.9 千円
※ 図書館の運営 1.5 千円
※ 公民館の運営 1.3 千円など

【安心安全】
消防署職員給与 8.5 千円など

【道路など基盤整備】(▲6.4 千円)
各務原大橋などの大型建設事業が終了することなどにより前年度より減少した。
※ 新設道路 5.5 千円
※ 道路維持 4 千円
※ 公園管理 1.3 千円など

【お年寄り・障がい者・生活保護などへの政策】
※ 障がい者自立支援などの障がい者福祉 11 千円
※ 障がい者、中学までの子供などの福祉医療 11 千円
※ 生活保護 8 千円など



【基金(貯金)】(18 千円増加)
計画的な財政運営を行うための「財政調整基金」や、庁舎耐震化に備えた「庁舎等整備基金」を積み立てた。
※ 財政調整基金 22 千円
※ 庁舎耐震化に備えた基金 3.4 千円など

【産業活性化】(600 円増加)
市内業者に発注するともらえるリフォーム補助金などの新事業を行い産業活性化が増加した。
※ 中小企業金融対策 2.3 千円
※ 航空宇宙科学博物館の経費 1 千円
※ ふれあいバス運行 750 円など

【ごみ処理など環境保全】
※ 北清掃センター運営 9 千円(職員給与含む)
※ 家庭ごみ収集 2.7 千円
※ し尿処理 1.2 千円(職員給与含む)

【借金返済】(1.2 千円増加)
市民1人当たり 1.2 千円増えた。

【医療・健康・保健】(▲7.9 千円)
国保会計で 65 歳未満の方々に使われた医療などに係る費用など。がん検診が増加したが、予防接種が減り、差し引き高齢者以外の医療・保険は減少した。
※ 国保から支払われた医療費 37 千円
※ 予防接種 2 千円
※ 妊婦・乳幼児などの健診など 1 千円など

【子供のため】(3.2 千円増加)
※ 児童手当 17 千円。
※ 公立・私立保育所の運営 14 千円
※ 小中学校耐震化工事 12 千円
※ 学校給食 4 千円など

【お年寄りの医療費など】(12 千円増加)
国保・介護・後期高齢者の各保険事業のうち 65 歳以上の方々に使われる医療などに係る費用。市民1人当たりの負担が 12 千円増えた。市民総額では 221 億円(事務経費なども含む)

グラフ-1 前年との歳出の比較



左のグラフ-1 (前年との歳出の比較) は平成 25 年度に「誰のため」、「何のため」に予算が使われたかを分類し、前年度と比較したものです。(数字は市民1人当たり)

主なポイントは、平成 25 年度の歳出は市民1人当たり 473 千円で、前年に比べ 14.6 千円ほど増えましたが、主に基金(貯金)積み立ての増加によるものです。全体から「貯金」と「借金返済」を抜いた正味の市民へのサービスに使われた金額は 405 千円で、前年に比べ 4.7 千円程減った。

主に以下の要因があります。

1. 各務原大橋など大型建設事業が終了し、土木費が 6.4 千円減った。
2. 市民会館の椅子の入れ替えなどのリフォームが終わり、文化会館費が減少した。
3. 65 歳以上の方の医療費などの負担が 12 千円増えた。
4. 小中学校の耐震化が前年度比で増加。平成 25 年度で全学校の耐震化は完了した。

これらの「歳出」を支えるための「歳入」の内訳は下のグラフ-2 の通りです。

平成 25 年度の歳入の特徴は、前年に比べて市債(借入金)を増やした点です。発行額は市民1人当たり 12.3 千円ほど増えました。前年度まで発行抑制していた「臨時財政対策債」を限度額まで借り入れたことで増加したものです。

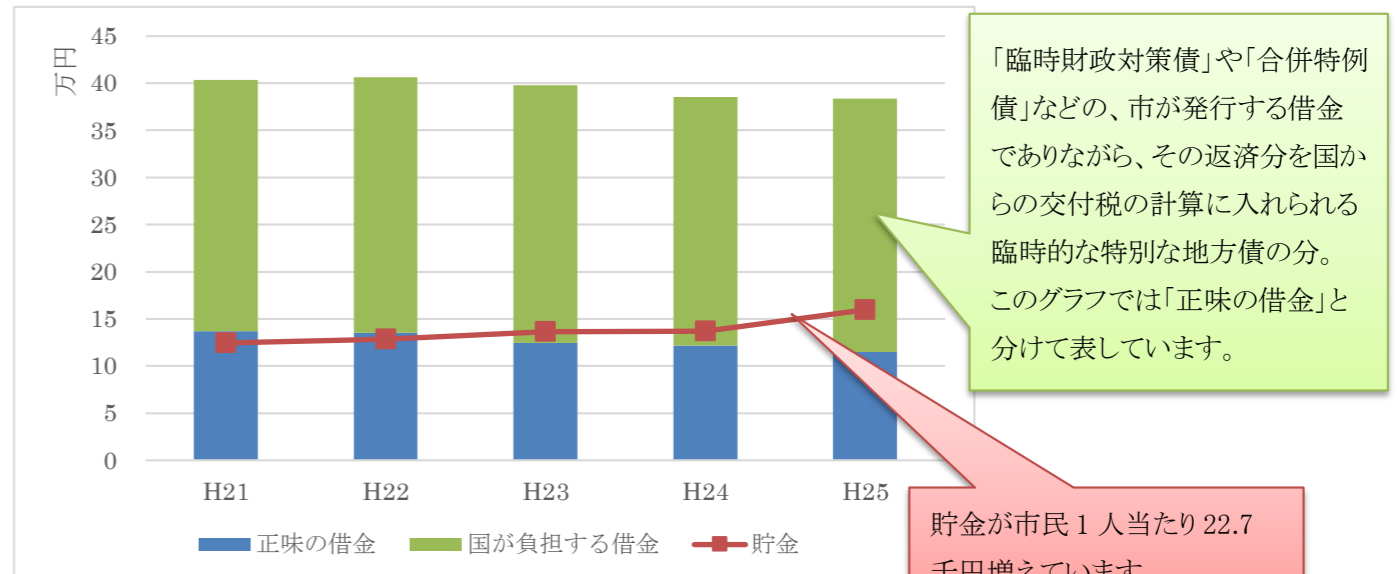
「臨時財政対策債」～地方一般財源の不足を補うために特例として発行される地方債。必要に応じて地方自治体が発行し、償還費用は全額国が負担する。

また、市の貯金と借金の推移は下のグラフ-3 の通りです。

平成 25 年度は臨時財政対策債を活用し、正味の借金を減らしつつ、貯金を増やしています。



グラフ-2 H25の歳入(市民1人当たり換算)



グラフ-3 前年との歳出の比較

「臨時財政対策債」や「合併特例債」などの、市が発行する借金でありながら、その返済分を国からの交付税の計算に入れられる臨時的な特別な地方債の分。このグラフでは「正味の借金」と分けて表しています。

貯金が市民1人当たり 22.7 千円増えています。